



ついでとらふ

初日の朝や

なみの上

逢橋

ひまわりもつね

高島

正月 三ヶ日

うき世をてんせを裁きよさう并 藤生

粥杖やほろろのふりも初の日 里水

茶室や清ふも道ても初は縁 花笑

初夢やまゝのねお眼の光る 浮月

箱よりやまふ合打ふあつたおと 松蔭

えりやちさきさきもあつたまう 雲半

えまほちやうふむなう初日を 耕月

初霧やしんぷらうて雪はきき 秋峰

晴しきを去るやうんそつ 又雅

よらんこいもまねをそは鏡餅 長流

酒好の人の娘ーねのうらち 飛燕

えりや林のやうもあつた 有夕

ゆえんすうの静あり初うらち 逢山

初霧やしんぷらうのつけきまた 秋清

梅屋やけの陰も三ッの縁 梅香

もろあーけを二初もまきれま 耕飲

けしきと空へさうやわのね 耕月

初雪やしらもろもろも思ふところ 休司

めまよりきの方のあつた初日縁 花言

あまもんや本馬もあつたまき先 翠子

けしきと空へさうやわのね 耕月

門も皆縁ーやほ達かきり 花月

誰より料もきく 逢山 序子

己のこと

